

人間ドックを受診される方へ

この度は、虎の門病院附属健康管理センターの人間ドックをご予約いただきまして、誠にありがとうございます。この冊子は、検査を安全にお受けいただくために必要な情報を説明しております。必ず事前にご一読いただき、受診前に必要な準備がございましたら対応をお願いいたします。

目次

○ 最初にご確認ください	1
○ ドック当日（お持ちいただくもの）	6
○ ドック当日（ご案内）	7
○ 便検査について	8
○ 食事制限について	9
○ お薬について	9
○ 結果報告と結果説明外来について	10
○ 上部消化管内視鏡検査について	11
▪ 上部消化管内視鏡検査に関する説明	12
▪ 内視鏡の種類について	15
▪ 生検（組織検査）について	16
▪ 上部消化管内視鏡検査前に休薬を必要とする内服薬の休薬期間一覧	17
▪ 鎮静剤について（ 要事前予約 ）	18
○ 上部消化管 X 線検査（バリウム検査）について	21
▪ バリウム検査に伴う危険性について	22
▪ バリウム検査を実施しない条件	22
▪ バリウム検査を慎重にご検討いただく必要がある方の条件	23
○ 補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）について	24
○ 受診後の体調不良について	24
○ 災害時等の診療体制について	25
○ 連絡先	25

※内容は予告なく改定する場合がございますのでご了承ください。



国家公務員共済組合連合会

虎の門病院
TORANOMON HOSPITAL

健康管理センター
画像診断センター

最初にご確認ください

I. 同封内容のご確認

お送りした封筒には、以下のものが同封されています。不足しているものがないか、内容をご確認ください。

1. 日帰りドック申込書 *¹
2. 人間ドックのご案内パンフレット
3. 人間ドックを受診される方へ（この冊子です）
4. 緑色のビニール袋に入った検便容器（2本）
5. 質問票（マークシート用紙）
6. 通院中の治療科および継続して使用している治療薬について
7. 上部消化管内視鏡検査の説明内容の確認と意思確認書 *²
8. 上部消化管内視鏡検査 問診票 *²
9. バリウム検査を安全にお受けいただくために *³
10. 感染対策に関するお知らせとお願い

*1 所属団体経由で申し込まれた方は同封されません

*2 胃内視鏡コースの方のみ

*3 胃バリウムコースの方のみ

万一、不足しているものがございましたら、お手数ですが至急ご連絡ください。

その他、必要に応じてオプション検査についてのご案内や受診時の注意事項なども同封している場合があります。

II. 有意義な健診となるため、ご留意いただきたいこと

人間ドックでは多数の検査をお受けいただきますが、検査によって一定のリスクを伴うものもあります。

当日体調がすぐれない方、病気で治療中の方、あるいは治療後の方などは、医師の判断により検査の一部または全部をお受けいただけない場合があります。

当センターの責によらず、受診される方のご希望、または状況で検査が実施されなかった場合は、原則として検査中止に伴う料金の減額対応は致しかねます。

当日の検査中止という事態を避けるために、次項の点にぜひご注意ください。

1. 主治医がいる方は、事前にドック受診について主治医とご相談ください。

病状によっては、実施が望ましくない検査があります。

特に、次に該当する方は事前に主治医にご確認ください。

- 1) 循環器疾患で通院中の方
特にペースメーカー挿入中、不整脈治療中、心臓や大動脈の手術後、
抗血栓療法（血液をサラサラにする治療）施行中などの場合
- 2) がんなどで通院中の方、抗がん剤等を使用中の方
- 3) 血液疾患で通院中の方
- 4) 人工透析中の方

2. 体調がすぐれないときは、日程を変更してください。

体調によっては、検査結果が一時的な影響を受け、本来の健康状態が解明できない場合があります。また、一部検査が実施できない場合があります。

発熱している方（37.5℃以上）や、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、ノロウイルス、帯状疱疹、ヘルペスウイルス感染症、流行性角結膜炎など、他の方に感染のおそれがある疾患にかかっている、または治療中の方は、人間ドックをご受診いただけません。治療を優先してください。

当センターにおける感染対策につきましては、別紙「感染対策に関するお知らせとお願い」、そして最新の情報を当センターのホームページに掲載しております。**ご受診前に必ずご確認ください。**

インフルエンザは発症後 1 週間かつ解熱してから 2 日、新型コロナウイルス感染症は発症した翌日から 10 日、ノロウイルスは嘔吐下痢症状がおさまってから 3 日以上過ぎるまで、人間ドックをご受診いただけません。

感染症が完治してから人間ドックをご受診ください。なお、治癒直後の受診は血液検査の結果に影響が出ますので、体調が回復してから受診することをお勧めします。

また、ワクチン接種後は、ワクチンの種類にかかわらず検査結果に影響するため、少なくとも 1 週間あけてからドックをご受診ください。接種後に発熱した場合（37.5℃以上）は、解熱 7 日後からご受診可能です。

上記にひとつでも当てはまる場合、予め日程変更をお願いいたします。

以下に該当する方もご受診いただけません。日程変更をお願いいたします。

・強いのどの痛みがある ・嘔吐が続いている ・水様性下痢をしている

さらに、以下に該当する方は、安全上の理由から上部消化管内視鏡検査をお受けいただけません。状態が安定してからご受診いただきますよう、人間ドックの日程変更をお願いいたします。

・極端に血圧が高い ・抜歯後 1 週間以内

- ※ 上部消化管検査のみを後日に行うことはできません。
- ※ 検査開始後に中止となった場合は、体調のためや医師の判断による場合でも、再検査や料金の減額対応は致しかねます。
- ※ 当センターでは人間ドック以外の検査、治療は行えません。

3. 制限のある検査

受診される方の条件により、実施できない検査があります。以下の項目に該当する場合は検査前にお伝えください。

	胃内視鏡検査	胃バリウム検査	胸部単純撮影	子宮がん検診A	子宮がん検診B	乳がん検診	肺がん等検診(胸部CT)	骨密度検査A・B	脳ドック・前立腺ドック	大腸内視鏡・大腸カプセル	動脈硬化ドック	血圧脈波検査	PET/CT検査	レディースドックA	レディースドックB
検査に際して意思疎通ができない(認知症等)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
妊娠中、妊娠の可能性がある	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×
ペースメーカー、植込み型除細動器挿入中である					×	×			×		×		×		×
人工弁挿入中、人工関節植込み後、 動脈クリッピング術または血管内ステント挿入中である											□				
腹部にステント挿入中である		×		△			△				□				△
体重90kg以上である											△				
体重120kg以上である		×		△					△		△		△		△
胃バリウム検査後2週間以内である	×	×						×	×				△		
消化管ポリープ切除後、生検(組織検査)後					△						△				△
過去にイレウスと診断されたことがある										×					
血液透析を行っている		×								×	△	△			
乳房全摘術・再建術後、豊胸手術後						△					△	△			
乳がんで腋窩リンパ節切除後											△	△			
水頭症シャント手術後				×	△			×	×						×
授乳中、断乳後6カ月以内である					×										
極度の閉所恐怖症である				×				×	×						×
血糖値が高い(200mg/dL以上)													×		
大動脈瘤(胸部・腹部)または大動脈解離がある											△	×			
深部静脈血栓症と診断されたことがある											△	×			
四肢の骨折もしくは四肢の範囲の広い怪我											△	△			
下肢静脈瘤・下肢の重度の浮腫											△	△			
不整脈がある											△				
緑内障である											△				

×の検査はご受診いただけません。

△の検査はご受診いただけない場合がございますので、お問い合わせください。

□の検査は各デバイスの周辺がMRI検査でみえないことがあります。

4. 転倒防止のために

ドック受診中においても、転倒のおそれがあります。特に次のような方が転倒しやすいとされています。

- 1) 過去1年間に転倒された方
- 2) 歩く速度が遅くなった方
- 3) 杖を使用している方
- 4) 背中が丸くなってきた方
- 5) 毎日薬を5種類以上内服している方

歩行に不安がある方は、必ず付き添いの方と一緒に上、受診中も付き添っていただくようお願いいたします。センター内の移動は、普段履きなれたかかとのある靴（サンダルは不可）をお使いください。なお、当方の判断で、スリッパからの履き替え、車いすの使用をお願いする場合がございます。ご了承ください。

5. 受診される際の同伴について

原則として、受診中は当センター職員の付き添いは致しかねます。基本的に各検査は受診される方ご自身でセンター内を移動して受けていただきます。お一人での行動や、日本語でのコミュニケーションが困難な方は、必ずご同伴の方がお付き添いください（医療通訳、補助犬含む）。

また、お子様を連れてのご受診は原則お控えください。当センターにはお子様をお預かりするところはありません。スタッフによる見守りも致しかねます。様々な検査機器等が設置されているため、各検査ブースの中にお子様は一緒にお入りいただけません。安全の保証が出来かねますので、何卒ご了承ください。

6. 報告書に一部結果の記載を希望されない場合について

事実と異なる報告は致しかねます。稀に、特定の検査結果を報告しないよう希望される場合があります。そのような依頼を行うこと、およびその依頼を受けて実際の結果と異なる報告、および実施した検査を実施しなかったように報告することは、犯罪行為に該当するおそれがあるため、当センターではお引き受け致しかねます。

報告を希望されない検査については、予めお申し出いただくことで検査の一部キャンセルが可能です。この場合、当該検査の報告欄に『検査せず』等と記載します。この取り扱いをご希望の方は、ドック受診日の1週間前までにお電話にてご連絡ください。

ただし、個人ではなく団体（ご職場・健保組合等）でご契約されている場合、お約束の検査を行う義務が当センターに生じております。契約団体に所属されている方で、検査の一部キャンセルをご希望の方は、事前に団体にお申し出いただき、団体の担当者を通じて当センターにご連絡くださるようお願いいたします。

なお、受診される方のご都合による検査の一部キャンセルについては、料金の減額対応等は致しませんので予めご了承ください。

7. ドック当日の虎の門病院本院のご受診について

健康管理センターと虎の門病院本院は別の施設です。病院で指示されている採血等の検査をドック受診の際に一緒に行くことはできません。また、人間ドック当日の午前中は、病院の外来受診はできません。ドックと同日の外来受診等を予定されている方はご注意ください。

8. やむを得ない場合の検査中止について

感染症対策等により、やむを得ず一部検査を実施しない場合がございます。その際、コース変更等で対応できる場合を除き、料金の減額対応は致しかねますのでご了承ください。

9. 医療行為に伴う侵襲や合併症・偶発症について

検査などの医療行為は、身体に対する侵襲を伴います。予想される重要・重大な合併症については説明いたしますが、極めて稀なものや予想外のものもあり、すべての可能性を予めご説明することができません。例えば、アレルギーによるショックや薬剤による副作用等、これまで大丈夫であっても、有害事象が生じる場合も稀にあります。また、採血の針による神経損傷も非常に稀に発生します。検査の安全性を高めるための努力を最大限に行っておりますが、これらのリスクや、医療の不確実性と限界についてご理解・ご納得いただいた上で、各種検査をお受けいただきますようお願いいたします。疑問・不安がある場合には、医師またはスタッフにお尋ねください。

ドック当日（お持ちいただくもの）

□ *健康保険証 もしくは **マイナ保険証（マイナンバーカードの健康保険証）

□ *診察券

虎の門病院と共通の診察券（登録番号）を使用しております。
初診で診察券をお持ちでない方は、当センターが当日までにご用意いたします。
紛失された方は、再発行いたしますので、なるべく前日までにご連絡ください。

□ *書類一式（事前にご記入の上でお持ちください）

○ 「質問票」（全ページ・全項目ご記入ください）

○ 「通院中の治療科および継続して使用している治療薬について」

○ 「上部消化管内視鏡検査の説明内容の確認と意思確認書」
「上部消化管内視鏡検査 問診票」

※胃内視鏡コースの方のみ。

「上部消化管内視鏡検査について（P.11）」を必ずお読みいただき、ご記入ください。

○ 「バリウム検査を安全にお受けいただくために」

※胃バリウムコースの方のみ。

「上部消化管X線検査について（P.21）」を必ずお読みいただき、ご記入ください。

□ 検便容器（2本）※「便検査について（P.8）」をご参照ください。

□ 眼鏡、コンタクトレンズケース（または替えのレンズ）

眼圧・眼底検査の際に、コンタクトレンズを外していただきます。

□ その他

● *利用券・・・・・・・・ご所属団体から指示のある方のみ。

● *ペースメーカー手帳・・心臓ペースメーカー挿入中の方のみ。

また、ペースメーカーを挿入している旨を当日受付にお伝えください。

● 履き慣れた靴・・・・・・・・スリッパをご用意しておりますが、歩行に不安がある方は、履き慣れた靴でお越しいただくか、かかとのある履き物をお持ちください（サンダル不可）。

◆ お支払いについて・・・・検査終了後に現金またはクレジットカードで精算いただきます。
クレジットカードのご利用には暗証番号（4桁）が必要です。サイン対応はしておりません。
また、ダイナースやアメリカンエクスプレスは、一部ご利用いただけないものがあります。

* : 当日の朝、受付時にご提出ください。

** : 受付をする前に、受付カウンター上にある機械で読み取っていただけます。

ドック当日（ご案内）

1. 受付時間

ご予約時間に健康管理センター総合受付へお越しください。時間に遅れますと、検査を受けられない場合がございます。10時30分を過ぎますと、自動的にキャンセルとなりますのでご注意ください。なお、お申し込みいただいているオプション検査もすべてキャンセルとなります（後日の検査も含む）。キャンセル・変更・遅刻等につきましては、お早めに当センターへご連絡ください。

2. 貴重品について

鍵付きのロッカールームをご用意しておりますが、貴重品はなるべくお持ちにならないようお願いいたします。財布、アクセサリ等、貴重品はご自身で管理していただきます。紛失事故等は当センターでは責任を負いかねますので、ご了承ください。

3. お化粧品・ネイルについて

お化粧をされる方は、薄めをお願いいたします。**ネイルをされている方は、全て除去してからお越しください。**診察や検査に支障が出る場合がございます。

4. 尿検査について

当日、受付後に採尿コップをお渡しし、尿検査を案内しております。お帰りになるまでの間に採尿していただければ構いません。ただし、採尿が終わるまでは水または白湯以外はお飲みいただけません。

5. 当日結果説明について（当日予約制）

ドック当日、結果が出ている検査（血液検査の一部、尿検査、便検査）の結果について説明いたします（無料）。ご希望の方は予約をお取りしますので、当日の受付時にお申し込みください。

6. 昼食について

当センターではお食事を提供しておりません。オプション検査をご予約いただいた方には近隣の提携店でお使いいただけるランチチケットをお渡ししておりますのでご利用ください。ただし、午後に予定されている検査の種類によってはお食事制限がございますのでご注意ください。

7. 転倒防止について

「4. 転倒防止のために（P.4）」をご参照ください。万一転倒して打撲した方は、思いがけず骨折などをされている可能性がありますので、必ずスタッフにお伝えください。

便検査について

【提出方法】

ドック当日の受付後、検体専用の窓口に検便容器を2本ご提出いただきます。

【採取方法】

便の採取は、原則として**受診日の前日に1本目、当日の朝に2本目**としていますが、便秘気味の方は受診日の4日前から採取していただけます。それよりも前に採取した便は、正確な検査結果が出ないためご提出いただけません。また、同日に2本採取するのではなく、なるべく別の日の便を採取してください。どうしても同日になる場合は、別の時刻に採取してください。なお、1本でもご提出いただければ検査は可能です。

【保管方法】

採取した便は採取日に関わらず、**すべて冷暗所（トイレ室内の涼しい場所等）で保管してください。**保管状態が悪い場合、正確な検査結果が出ない恐れがありますのでご注意ください。

【後日提出】

ドック当日に提出ができない場合は、当日を含め3営業日かつ5日以内（受付時間8:00～15:00）に当センターへ直接ご持参いただければ検査可能です。祝日や長期休暇を挟む場合は受付可能な日が少なくなりますのでご注意ください。郵送でのご提出や、提出期限を過ぎたものは受付致しかねますので、ご了承ください。

【受付可能な日が少なくなる場合の例】

1/10（金）にドックを受診し、1/13（月）が祝日だった場合
祝日を挟むため、通常より受付可能な日が少なくなります。

1/10(金)	1/11(土)	1/12(日)	1/13(月・祝日)	1/14(火)	1/15(水)
ドック当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
1営業日	休み	休み	休み	2営業日	3営業日
受付可	不可	不可	不可	受付可	不可

月経中の方は、尿・便検査の結果に影響する可能性がありますので、受診日を変更するか、便検査については後日提出をご検討ください。尿検査については後日提出を承っておりません。なお、尿・便検査をキャンセルされる場合、それによる料金の減額対応は致しかねます。

食事制限について

【ドック前日】（全コース）

前日の夕食は午後 8 時までに軽く済ませ、それ以降は召し上がらないでください。

飲水については、水または白湯に限り食後もお飲みいただけます。ただし市販の飲料の中には、ビタミン C など検査結果に影響する成分を含むことがありますのでご注意ください。アルコール類はお控えください。胃検査なしコースの場合も、採血・採尿等の結果に影響いたしますので、**上記の食事制限を必ずお守りください。**

【ドック当日】（胃バリウムコース）

朝食は召し上がらないでください。

飲水は予約時間の **2 時間前まで可能**です。

水または白湯に限りお飲みいただけます。

【ドック当日】（胃内視鏡コース・胃検査なしコース）

朝食は召し上がらないでください。

飲水は予約時間の **直前まで可能**です。

脱水予防のため、水または白湯を積極的にお飲みになってからお越しくください。

お薬について

1. 糖尿病の薬

ドック当日の朝は、糖尿病の薬（インスリン注射や経口血糖降下薬）は中止してください。絶食中に低血糖を起こしやすくなります。

2. 糖尿病以外の薬

ドック当日の朝に薬を内服するかどうかについては、基本的に**主治医の指示を受けてください。**薬によっては休薬すると危険なものもあります。**降圧剤、心臓や喘息の薬を常用されている方は、原則として内服してください。**内服はなるべく起床時に 150ml 位の水または白湯でお飲みください。また、内服した薬の名前を、受診当日に医師または看護師に必ずお伝えください。

3. 内視鏡コースの方へ

P.17 にもお薬についての注意事項がございますので、ご確認ください。

結果報告と結果説明外来について

1. 結果報告について

原則として受診日の約 2～3 週間後に「総合健診結果報告書」を送付いたします。なお、上部消化管内視鏡検査で生検（組織検査）を行った場合は、さらにお時間をいただく場合がございますので予めご了承ください。なお、オプション検査の結果は**検査ごとに別便**でお送りいたします。

2. 結果説明外来について

結果説明外来では健診結果の説明を行っております。また、医師の判断によりドックで発見された異常に関する再検査や追加検査、虎の門病院専門外来へのご紹介を行っております。結果説明外来は虎の門病院本院、または健康管理センターにて行っており、事前に予約が必要です。ご希望の方は、**結果報告書が届いてから**お電話または受付にてご予約ください。（予約方法など詳しくは結果報告書に同封する案内をご参照ください。）

3. 眼底検査について

眼底検査は、瞳孔を大きく開いて（散瞳）光を当てて行う検査です。当センターでは暗室でしばらくお過ごしただいて自然に散瞳した状態で検査を行いますが、散瞳には個人差があり、十分に開かない場合は組織が見えにくく「判定不能」という結果になることがあります。このような方の検査では眼科医の指示のもと散瞳薬投与を行う必要がありますが、ドックではその対応が出来ません。検査結果が「判定不能」だった場合は、後日改めて眼科を受診することをお勧めします。

4. 画像データのご提供について

ドックで行った検査の画像データをご希望の場合、検査の種類毎（放射線・超音波・内視鏡）に CD-R を作成いたします。作成料として 1 種類毎に 1,320 円（税込）と、完成までに 1～2 週間ほどいただきます。ご受診当日に受付でお申し込みください。ご受診後のお申し込みはお電話で承っております。

上部消化管内視鏡検査について

上部消化管内視鏡検査は「有効性評価に基づく胃癌検診ガイドライン 2014 年版」において、胃バリウム検査に加え、対策型検診（自治体・職域で行う検診）として推奨されております。

当センターでの上部消化管内視鏡検査においては、検査前に文書で検査の内容や危険性などに関してご説明した上で意思確認書にご署名をいただいております。これは、検査に際して事前に十分ご理解いただいた上でご同意いただきたいとの観点（いわゆるインフォームド・コンセント（説明と同意））からの措置です。

胃内視鏡コースをご予約いただいた方は、意思確認書への署名が必要となります。**次項の説明を必ずお読みいただき、同封の『上部消化管内視鏡検査の説明内容の確認と意思確認書』の受診者署名欄にご署名、および緊急連絡先電話番号（ご本人以外）へ記入し、当日お持ちください。**

疑問点のある方は、署名をせずにお持ちいただき、診察時に医師の説明を聞いてご納得してからご署名ください。代理判断者署名欄は、お付き添いの方など代わりに同意の可否を判断する方がいる場合のみご記入ください。

また、『上部消化管内視鏡検査 問診票』も併せてご記入の上、お持ちくださいますようお願いいたします。

検査前には、お食事の制限がございます。前日の夕食は午後 8 時までに済ませ、当日の朝食は召し上がらないでください。詳しくは**食事制限について（P.9）**および**上部消化管内視鏡検査に関する説明（P.12）**をお読みください。体調がすぐれないときには、**日程を変更してください（P.2）**。

※以下に該当する方は上部消化管内視鏡検査を安全に行うことができません。

- | | |
|-----------|-------------|
| ・極端に血圧が高い | ・抜歯後 1 週間以内 |
|-----------|-------------|

なお、検査当日に治療を優先すべき病状がみられるなど、上部消化管内視鏡検査を安全に行うことができないと医師が判断した場合、検査を中止しますので、予めご了承ください。

- ※ 上部消化管内視鏡検査のみを後日に行うことはできません。
- ※ 検査開始後に中止となった場合は、体調のためや医師の判断による場合でも、再検査や料金の減額対応は致しかねます。
- ※ 当センターでは人間ドック以外の検査、治療は行えません。

コース変更や日程変更、キャンセル等は事前にご連絡ください。

上部消化管内視鏡検査に関する説明

1. 上部消化管内視鏡検査はどのように行われるのでしょうか？

- 1) 胃内部の粘液を洗い流すための消泡剤（水薬）を飲みます。
- 2) 咽頭（のどの奥）に麻酔をします。ゼリー状の麻酔薬を口にいれ、のどの奥に数分間ためた後、飲み込みます。
- 3) 検査台では、**左**を下にして横になります。ここで内視鏡担当医がのどにスプレー麻酔を追加する場合があります。そのあと内視鏡を口からのどを通して食道に挿入します。経鼻の場合は鼻から挿入します。内視鏡が入っても必ず呼吸はできますので、落ち着いてゆっくり呼吸してください。検査中、唾液は口の中にためず、出してください。
- 4) 食道、胃、十二指腸の観察を行い、必要があれば色素を散布して詳細な観察や生検（顕微鏡検査用に組織の小片を採取すること）を行います。
- 5) 内視鏡抜去後、口の中にたまっている唾液は飲み込まずに全部出してください。咽頭麻酔が 30 分～1 時間効いていますので、飲み込むとむせることがあります。

なお、鎮静剤（精神的・身体的に緊張を和らげる作用のあるお薬）を希望される場合は、事前にお早めに当センターまでお電話いただき、お申し込みください。詳細については、「鎮静剤について」（P.18）をお読みください。

2. 上部消化管内視鏡検査のためにどんな準備が必要でしょうか？

安全で正確な検査を受けるには、胃の中を空にしておく必要があります。前日の食事は午後 8 時まで済ませ、それ以降は何も食わずに睡眠を十分にとってください。ただし、脱水予防のため、水または白湯は積極的に飲みください。胃切除をされた方や、以前上部消化管内視鏡検査を受けたときに胃内に食物が残っていたことがある方は、より長時間の食事制限が必要な場合がありますので、主治医にご相談ください。

3. 毎日内服している薬はどうしたらよいのでしょうか？

検査に支障をきたす薬がありますので事前に主治医へご相談ください。

- ・ 血液をサラサラにする薬剤（抗凝固薬・抗血小板薬 P.17 休薬期間一覧参照）を内服中の方は、検査前から休薬しないと生検および「経鼻」内視鏡はできません。休薬については P.17 を主治医に提示し、ご確認ください。

- ・ **ワーファリン、プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナを内服中の方**については、当センターでは生検をすることができません (P.17)。そのまま内服を続けてください。また、「経鼻」内視鏡をお受けいただけませんので「経口」での内視鏡検査となります。
- ・ 糖尿病の薬（インスリン注射や経口血糖降下薬の内服）は、絶食中に低血糖を起こしやすくなるため検査当日は中止してください。
- ・ 上記以外の薬については、朝の分を起床時に 150ml 位の水で内服してください。内服した薬の名前を当日に医師または看護師にお伝えください。

4. 他に伝えるべきことはありますか？

- ・ キシロカインショックの既往がある方
（歯科の麻酔で呼吸困難に陥ったり、血圧が下がってショックになったりした経歴がある場合は可能性が高いです。）
- ・ 薬に対してアレルギーがある方
（例：造影剤、ヨード剤、アルコール消毒綿、ヘパリン）
- ・ 現在感染症にかかっている方
以上に該当する方は必ず当日に医師または看護師にお伝えください。

5. 上部消化管内視鏡検査にはどんな危険性がありますか？

- ・ 咽頭麻酔に使用するキシロカインでショックを起こすことがあります（0.001%未満）。
- ・ 鎮静剤を使用した場合、鎮静剤に対する反応が強くなる（血圧低下、呼吸不全等）可能性があります（0.001%未満）。
- ・ 上部消化管の壁が裂けて穴が開くことがあり、外科的手術が必要となる場合があります（0.01%未満）。
- ・ 生検をした部位や、検査中の嘔吐反射で裂けた部位から出血することがあります（およそ 0.1%）。ほとんど内視鏡下に止血できますが、稀に輸血や外科手術が必要になります（0.01%未満）。
- ・ 消化管の形の問題や技術的な問題のために検査を完了できないことがあります（およそ 0.5%未満）。
- ・ 病気が見落とされる可能性があります（およそ 0.1%）。
- ・ 誤嚥が生じて肺炎を起こすことがあります。
- ・ 心臓・肺・脳疾患の合併症が出る可能性があります（不整脈、血圧低下、狭心症、心筋梗塞、呼吸不全、脳血管障害、健忘等：およそ 0.01～0.1%）。

以上から、非常に稀ですが、死亡する場合や（0.001%未満）、重度の後遺障害が残る（およそ 0.01%）可能性があります。（頻度は日本消化器内視鏡学会の報告や当施設での経験等による数値です。）

6. 検査後の注意事項はありますか？

- 検査時に内視鏡担当医が簡単に結果を説明いたしますが、生検をした場合や治療の必要があるといわれた場合は、結果説明外来を必ず受診してください。
- 内視鏡が触れた影響で喉がヒリヒリして少量出血することや、検査中に空気を入れるため腹部が張ることがあります。程度の強い場合は落ち着くまで内視鏡室で経過をみます。
- 検査後 1 時間ほどで咽頭麻酔がきれますので、通常通り食事をして構いません。ただし、個人差がありますので様子を見ながら数時間かけていつもの状態に戻すと良いでしょう。
- 鎮静剤を使用した場合の注意事項については、P.19 をご覧ください。

内視鏡の種類について

当センターでは、病院診療でも使用している外径約 9 ミリの「(経口) 通常径」内視鏡の他、外径約 6 ミリの「細径」内視鏡を使用して口から挿入する「(経口) 細径」法と、鼻から挿入する「経鼻」法を行っております。

経口 通常径	画質、操作性ともに優れていますが、人によっては嘔吐反射が強くなる場合があります。
経口 細径	通常径に比べ画質、操作性に劣るため検査に時間がかかります（約 1.5 倍から 2 倍）が、嘔吐反射はやや軽減されます。
経鼻	嘔吐反射はさらに軽減される傾向がありますが、鼻の痛みや鼻出血が起こることがあります。鼻腔が狭いなどの理由で内視鏡が入らなければ、口からの挿入に変更いたします。

以上の特性から、特にご希望がなければ「通常径」で検査を行います。
また、以下に該当する方は「経鼻」は行えません。

- ・ 現在、耳鼻科で鼻・副鼻腔疾患の治療中の方
- ・ 頻繁に鼻血が出る方
- ・ 肝硬変や血液疾患などのため、出血しやすい、あるいは止血しにくい方
- ・ 抗凝固薬・抗血小板薬（P.17 参照）を服用中で休薬期間が十分でない方
- ・ ワーファリン、プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナを内服している方
- ・ 麻酔薬のアレルギーがある方

なお、次の方は詳細な観察が必要なため「通常径」での検査をお勧めしております。

- ・ 内視鏡検査が初めて、または前回の内視鏡検査から 5 年以上経過している方
- ・ 食道・胃・十二指腸の疾患で外科手術、内視鏡手術、放射線治療、化学療法などの治療を受けたことがある方
- ・ ピロリ菌がいるといわれたことがある、あるいは除菌歴がある方
- ・ 萎縮性胃炎があるとされている方

生検（組織検査）について

重 要

上部消化管内視鏡検査の際、精密検査として生検（組織検査）を行うことがあります。生検とは悪性かどうか等を判断するために、顕微鏡検査用に食道や胃などの組織の小片を採取することです。

1. 血液をサラサラにする薬剤（抗凝固薬、抗血小板薬）を内服中の方は、上部消化管内視鏡検査前から休薬しないと生検はできません。

生検後に出血が止まらない危険があるためです。必要な休薬期間は薬剤によって異なります。主治医の指示で休薬が困難とされた場合、生検は実施できません。上部消化管内視鏡検査を予約されましたら、検査前後に薬剤を休薬してよいかどうかを主治医と必ずご相談ください。その際、休薬期間一覧（P.17）を主治医に必ずご提示ください。休薬が可能な場合、必要な期間休薬していただければ、生検が必要な病変があった際に生検が可能です。

2. 生検を実施した場合は、追加料金がかかります。

生検手技、および顕微鏡検査は保険診療の対象となります。料金は生検の個数や健康保険の自己負担割合によって異なりますが、およそ 4,000～10,000 円程度です。健康保険証もしくはマイナ保険証を確認させていただきますので、当日必ずお持ちください。また、結果報告書の作成に通常よりお時間をいただきますので予めご了承ください。

3. 稀ですが、生検後 3 日間は生検部位から出血することがあります（およそ 0.1%）。

生検を実施した場合は出血の危険があるため、**検査当日を含む 3 日以内の飛行機の利用は避けてください。**飛行機利用中に万一出血した場合、緊急対応が難しいためです。また、**検査当日を含む 3 日間は禁酒と食事制限が必要となります。**飲酒をすると出血するリスクが高くなるためです。

上部消化管内視鏡検査時に生検する必要があると判断されたが、休薬期間が足りない場合や、ご自身の都合で当日の生検を見合わせたい場合は、後日改めて上部消化管内視鏡検査および生検を行うことをお勧めします。その際は保険診療となりますので、当センターでは実施できません。医療機関を受診していただくこととなりますので、予めご了承ください。

以上のことをご検討いただき、必要時に生検を行うことに同意するかどうかをお決めください。なお、生検をご希望の場合も、生検の可否は医師が判断します。

上部消化管内視鏡検査前に休薬を必要とする内服薬の休薬期間一覧

薬品名 一般名（代表的商品名^{*1}） 後発品は商品名が異なりますのでご注意ください。

抗凝固薬・抗血小板薬	休薬期間 ^{*2}
アスピリン（バイアスピリン）（タケルダ）（キャブピリン）	3日
チクロピジン（パナルジン）	5日
クロピドグレル（プラビックス）	5日
アスピリンとチクロピジンないしクロピドグレル併用、コンプラビン配合薬	5日
プラスグレル（エフィエント）	5日
チカグレロル（ブリリント）	5日
アスピリンとプラスグレルないしチカグレロル併用	7日
シロスタゾール（プレタール）	1日
リマプロスト（プロレナール）（オパルモン）	1日
サルボグレラート（アンブラーグ）	1日
ベラプロスト（ドルナー）（ケアロードLA）	1日
イコサペント酸エチル（エパデールS）（ロトリガ）（EPA）（DHA） （オメガ3脂肪酸エチル）	1日
ジピリダモール（ペルサンチンL）（ペルサンチン）	1日

ワーファリン、プラザキサ、イグザレルト、エリキュース、リクシアナを内服している方は、当センターでは生検はできません。主治医の指示通りに内服を続けてください。なお、これらの薬を内服している方は、鼻出血をさけるため経鼻内視鏡を選択できません。

*1 抗凝固薬・抗血小板薬の休薬期間が不足する場合、経鼻内視鏡は選択できません。
これ以外にも出血が止まりにくくなる薬はありますので、不明な場合は主治医にお尋ねください。休薬する場合は、その可否を判断できる主治医の許可を必ず得てください。

*2 **休薬期間は検査当日を含まない日数です。**検査当日も内服しないようご注意ください。

例：バイアスピリンを内服している方は、検査当日を含めると計4日間の休薬が必要です。

【検査日が4月8日の場合】

1日目	2日目	3日目	検査当日
4/5	4/6	4/7	4/8
休薬	休薬	休薬	休薬
			→

自己判断での薬剤中止は、危険な場合があります。

鎮静剤について（経口時のみ使用可。希望される場合は、要事前予約。）

鎮静剤とは精神的・身体的に緊張を和らげる作用のあるお薬です。鎮静剤をご希望の方は、検査室に入ってから静脈注射を行います。その注射によって眠る方もいますが、多くの方は“ぼんやりしている”“ウトウトしている”という状態で検査を受けることとなります。**鎮静剤の効果には個人差があります。**

検査中は薬の作用で呼吸が抑制されるため、生体モニターを装着し血中酸素濃度や心拍数、血圧などを監視しながら検査を行います。

検査終了後は、生体モニターを装着した状態で1時間ほど休んでいただき、意識がはっきりしていることや、ふらつきがないこと、血中酸素濃度や心拍数、血圧が安定していることを確認してから、ご帰宅いただきます。

〈鎮静剤を使用できない方〉

- ・ 睡眠時無呼吸症候群の方
- ・ 重症筋無力症の方
- ・ 急性狭隅角緑内障の方
- ・ 心疾患（狭心症・心不全等）のある方
- ・ 呼吸器疾患（肺線維症・非定形抗酸菌症等）のある方
- ・ 透析中の方
- ・ 高度肥満（BMI \geq 35）の方
- ・ 酸素飽和度94%以下の方
- ・ 鎮静剤にアレルギーがある方
- ・ 鎮静剤で偶発症を起こした方
- ・ 75歳以上の方
- ・ 70歳以上で、当日付き添いの方（鎮静剤を使用されない方）がいない方
- ・ 歩行が不安定な方
- ・ 妊娠中・授乳中の方
- ・ 当日仕事の予定がある方
- ・ 24時間以内に車の運転や飲酒の予定がある方
- ・ ジェルネイル、マニキュアをしている方（両手の全ての爪）
- ・ 「鎮静剤禁忌薬剤表（P.20）」に記載のある薬剤を使用している方

〈鎮静剤を使用できない可能性のある方〉

- ・ 心疾患（不整脈等）のある方
- ・ 呼吸器疾患（肺気腫・気管支喘息等）のある方
- ・ 血管確保の困難な方

鎮静剤使用の可否は、上記以外の状況も含めて医師が判断いたします。希望されても鎮静剤を使用できない場合がありますのでご了承ください。

〈副作用〉

- ・ 稀に一過性に呼吸抑制や血圧低下を引き起こすことがあります。
- ・ 呼吸が弱くなり、血中の酸素濃度が低い状態が長く続くと、脳や心臓に悪影響を及ぼすことがあります。
- ・ 薬により眠ると、検査したことを覚えていない場合や、一時的に眠気が残り判断力が低下することがあります。
- ・ 誤嚥（唾液や逆流した胃液を誤って気管に吸い込んでしまう）を起こすことがあります。誤嚥すると咳や痰・発熱などの症状がみられ、重症化すると呼吸困難、のちに肺炎になることがあります。
- ・ 鎮静剤を注射で投与する場合、血管以外の場所を針で刺してしまうことや、皮下出血が起こることがあります。また、ごく稀に一時的なしびれがみられることもあります。通常は徐々に消失します。
- ・ 消化器内視鏡学会医療安全委員会がまとめた、2008年から2012年までの5年間に行われた内視鏡検査では、前処置（のどの麻酔や胃腸の運動を止めるための注射や鎮痛・鎮静剤の注射等）による偶発症の発生が250例（総検査数の0.0015%）、死亡事故が4例（0.000025%）報告されています。

〈注意事項〉

- ・ 検査後24時間は仕事への復帰・自動車等の運転・小さな子供の世話・機械の操作・重要な法的書類への署名・および飲酒等は事故につながるおそれがあるため、行わないでください。
- ・ 鎮静剤の拮抗剤（鎮静剤の効果をなくす薬）を使用する場合があります。拮抗剤を使用すると、数分で目が覚めますが、数時間後に再度鎮静剤が効果を出して強い眠気が生じることがあります（鎮静剤より拮抗剤の方が早く効果がなくなることがあります）。事故防止のため、検査終了後は速やかに帰宅し、当日は外出を避けてください。
- ・ 検査終了後は、内視鏡室で1時間ほど休んでからお帰りいただきます。
- ・ 身体に力が入りにくくなる場合があります。ご帰宅の際は、転倒等に十分にご注意ください。ハイヒールや脱げやすい靴を履かないようにしてください。
- ・ 70歳以上の方には、帰宅までどなたか（鎮静剤を使用されない方）に付き添っていただきます。付き添いのない場合、鎮静剤は使用致しかねます。
- ・ **血中酸素飽和度の観察に支障をきたすため、ジェルネイル・マニキュアは全て除去してご来院ください。**
- ・ 催眠作用、鎮静作用、健忘作用、筋弛緩作用等の鎮静剤による影響は、薬剤の種類により1日から2日残ることがあります。

〈料金〉

薬品代、血中酸素濃度・心拍数モニターなどの麻酔状態管理料として別途料金7,700円（税込）がかかります。

〈その他〉

鎮静剤使用により重大な副作用や偶発症が起きる可能性があります。この場合、直ちに必要な治療・処置を行います。当該治療にかかる医療費（保険診療）は、ご負担いただく必要があります。また、それらの事情により検査を実施（継続）することが出来なくなった場合は、検査を中止します。その後に予定している検査を受けられなくなる場合もあります。

以上の事柄をご理解いただいた上で、鎮静剤の使用をご希望の方は事前にお早めにお申し込みください。鎮静剤の使用を希望される方が多い場合は、人間ドックの日程変更をお願いすることがございます。上部消化管内視鏡検査のみを後日に行うことはできませんので、予めご了承ください。

鎮静剤禁忌薬剤表（*2022年7月時点）

薬品名（阻害薬）	
一般名	（先発品）商品名
アタザナビル	レイアタツ
コビシスタット	ゲンボイヤ、シムツーザ、スタリビルド、プレジコビックス
ネルフィナビル	ビラセプト
ダルナビル	シムツーザ、プリジスタ、プレジコビックス
ホスアンプレナビル	レクシヴァ
リトナビルを含有する薬剤	カレトラ、ノービア、パキロビッド
イトラコナゾール	イトリゾール
ケトコナゾール	ニゾラル（日本では外用薬のみ）
テリスロマイシン	ケテック
ボリコナゾール	ブイフェンド
エリスロマイシン	エリスロシン
クラリスロマイシン	クラリス
サキナビル	インビラーゼ
ジルチアゼム	ヘルベッサ
ネファゾドン	日本では販売なし

当センターでは鎮静剤にミダゾラムを使用しております。

内服した薬は、必ず医師または看護師に当日お伝えください。

上部消化管 X 線検査（バリウム検査）について

上部消化管 X 線検査（バリウム検査）は、我が国で 50 年以上の実績を持ち、胃癌死亡率の減少効果が証明されており、現在対策型検診（自治体・職域などで行う検診）として「有効性評価に基づく胃癌検診ガイドライン 2014 年版」で推奨されている検査方法です。ただし全ての医療行為には一定のリスクが伴い、この上部消化管 X 線検査（バリウム検査）にもリスクが存在します。**次項の説明をよくお読みいただき、検査を受けられる方は同封の『バリウム検査を安全にお受けいただくために』をご記入の上、当日お持ちください**（ご質問はドック当日の診察時に医師におたずねください）。

検査前に、食事・飲水制限がございます。前日の夕食は午後 8 時までに済ませ、当日の朝食は召し上がらないでください。飲水は予約時間の 2 時間前まで、水または白湯に限りお飲みいただけます。

『胃バリウムコース』にお申し込み後に上部消化管 X 線検査（バリウム検査）をキャンセルする場合、『胃検査なしコース』または『胃内視鏡コース』にご変更いただけます。ただし、『胃内視鏡コース』への変更は、当日の空き状況により承れない場合がございますので、ご希望の方はお早めにご連絡ください。

なお、バリウム検査のみを後日に行うことはできませんので、予めご了承ください。

バリウム検査に伴う危険性について

1. 誤嚥

食道から胃へと飲み込むはずのバリウムが、誤って気管に入ってしまうことです。バリウム検査を受けた方の0.01%に起こるとされていますが、特に65歳以上では男性0.17%、女性0.08%と、より頻度が高いと報告されています。

バリウムを誤嚥した場合、通常は無症状ですが、誤嚥が起きた方の10%に発熱がみられたとの報告があります。またバリウムが肺まで達した場合、以後胸部のX線検査で遺残バリウムによる陰影が残ることがあります。

2. 便秘・腸閉塞・腸管穿孔

バリウムを服用すると便秘しやすいため（特に女性）、検査後に緩下剤を服用していただきます。非常に稀な合併症として、腸閉塞（0.00005%）および腸管穿孔一穴があくこと（0.00014%）が知られており、検査後に強い腹痛が生じた場合には、速やかな医療機関の受診が必要です。

3. アレルギー症状

稀ですが、バリウム製剤の成分により、アレルギー症状が報告されています（0.0013%）。代表的な症状は、発疹・咳・呼吸困難等です。バリウム製剤によってアレルギー症状を起こしたことがある方は、バリウム検査をお受けいただけません。

4. 放射線被曝

上部消化管X線検査の被曝量は、0.6～4.9mSvとされ、成人の健康に影響するほどではありません。ただし胎児は放射線の影響を強く受けるため、妊娠中の方や、妊娠の可能性のある方にはバリウム検査を行っていません。

バリウム検査を実施しない条件

当センターでは次項にあてはまる方には、上部消化管X線検査（バリウム検査）を実施できません。『胃内視鏡コース』または『胃検査なしコース』をお選びください。コース変更をご希望の場合は、事前にご連絡ください。

- ・ 妊娠中の方、あるいは妊娠の可能性がある方
- ・ バリウム造影剤服用でアレルギー症状(じんましん・皮膚発赤・呼吸困難・血圧低下など)を起こしたことがある方
- ・ 過去に胃切除術を受けたことがある方
- ・ 体重 120kg 以上の方
- ・ 人工透析を受けている方
- ・ 腹部大動脈瘤と診断されている、または治療後の方
- ・ 過去に誤嚥(バリウム以外も含む)の経験がある方
- ・ 普段、食事や水分摂取でむせることが多い方
- ・ 腸閉塞(イレウス)と診断されたことがある方
- ・ 最近 1 年以内に腹部(婦人科、泌尿器科を含む)の手術を受けた方

バリウム検査を慎重にご検討いただく必要がある方の条件

前頁に説明した危険性について、合併症が起こりやすい条件が調査により明らかになっています。以下に該当する方は通常より合併症リスクが高い可能性、または十分な検査が行えない可能性があるため、バリウム検査を受けるか慎重にご検討ください。また主治医のいる方は、予めご相談いただくようお願いいたします。

1) 誤嚥を起こしやすい条件

- ・ 75 歳以上の方
- ・ 神経疾患(脳梗塞・パーキンソン病など)にかかっている方
- ・ 咽頭(のど)の手術を受けたことがある方
- ・ ドック当日、咳が出る、または吐き気がある方

2) 便秘などを起こしやすい条件

- ・ 胃腸の疾患で治療を受けている方
(ただしバリウム検査を受けることについて、主治医の許可がある場合は除く)
- ・ 水分制限をしている方(心臓病・腎臓病など)
- ・ 普段から便秘気味の方

3) 検査中に台の上で体の回転を十分行いにくい方 (安全に検査を行えないことがあります)

- ・ 神経疾患にかかっている方
- ・ 整形外科の疾患にかかっている方など

4) その他

当センターでは以下の方にはバリウム検査をお勧めしておりません。

- ・ 40 歳未満の方(検査のメリットが少ないため)
- ・ 年齢を問わず 1 年以内に上部消化管 X 線検査(バリウム検査)または注腸検査(下部消化管バリウム検査)を受けた方

補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）について

当センターでは、身体障害者補助犬法に基づき、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）を受け入れております。補助犬が待合室、検査室などに同伴される場合がありますので、ご了承ください。

（補助犬を同伴される方へ）

原則として施設内のどこへも同伴いただけますが、状況によっては補助犬の待機をお願いする場合があります。スムーズに検査をお受けいただくため、受診日の1週間前までに補助犬を同伴される旨をご連絡ください。

受診後の体調不良について

安全に十分注意しておりますが、すべての検査には一定のリスクが伴い、検査による副作用が絶対にはないとは言えません。万一、ご受診後に体調がすぐれない場合は、当センター、または虎の門病院にご連絡ください。

- ・ 全身的に調子が悪い
（高熱が出る、頭痛、寒気、ふらふらする、息が切れる等）
- ・ のど、胸、胃に鋭い痛みがでる
- ・ 水、食物が飲み込めない
- ・ 嘔吐する など

虎の門病院附属健康管理センター

TEL 03-3560-7777

（平日 11:00～16:30 まで）

虎の門病院本院 救急外来

TEL 03-3588-1111（代表）

（上記以外の時間帯）

なお、当センターには治療の設備・体制がございませんので、医療機関を受診する場合は、虎の門病院、またはお近くの医療機関をご受診ください。

災害時等の診療体制について

台風、大雪などの自然災害等やそれに伴う交通機関の計画運休が予定される場合には、その程度によっては十分な検査体制がとれない場合があります。お越しになった方には可能な限り検査を行います。職員が欠員や資材の不足等により、長時間お待たせすることや、必要な検査が行えない事態が生じる可能性もあります。この場合、行えなかった検査については、オプション検査を除き返金や後日の再検査は原則致しません。

大規模な計画運休等の場合は、可能であれば日程変更されることをお勧めします。前営業日 15 時までにご連絡いただいた場合は、検査日の振り替えをいたします。なお、当日 10 時 30 分を過ぎてもご連絡がない場合は、後日のオプション検査も含めすべての検査がキャンセルとなりますのでご注意ください。また、状況によっては前もって休診とする場合もございます。

予期できない大規模災害やテロ等の際には、予告なく休診とすることがあります。当センターへの電話が不通の場合は、来院を見合わせてください。

連絡先

虎の門病院附属健康管理センター

TEL 03-3560-7777（平日 11 時 00 分～16 時 30 分）

休診日：土・日・祝祭日・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）